

# 愛媛大学文系研究センター 開設記念式典・記念講演会

| 日時 | 2019年5月27日[月] | 会場 | 大和屋本店 大和の間  
14:00～17:20(受付13:30～) 松山市道後湯之町20-8 TEL089-935-8880

## 記念式典 14:00～15:35

### ■ 開会挨拶

愛媛大学長 大橋 裕一

### ■ 文系研究センター設置の意義

愛媛大学理事・副学長(社会連携・企画担当) 仁科 弘重

### ■ 各センターの概要説明と地域のステークホルダーからの期待

地域共創研究センター 寺谷 亮司センター長

◀◀◀◀◀ 「気軽にコミュニティ・カレッジin内子」懇話会代表 森長 照博 氏

四国遍路・世界の巡礼研究センター 胡 光センター長

◀◀◀◀◀ 四国八十八ヶ所霊場会顧問 第五十二番札所太山寺長老 吉川 俊宏 氏

俳句・書文化研究センター 三浦 和尚センター長

◀◀◀◀◀ 松山市立子規記念博物館館長 竹田 美喜 氏

休憩 15:35～15:50

## 記念講演会 15:50～17:20

テーマ:『奇跡の四国遍路』～歩行から生まれる思考～ 講師:俳人 黛 まどか 氏



©MPd F8 PHOTO STUDIO

黛 まどか (まゆずみ まどか)

俳人。神奈川県生まれ。2002年、句集『京都の恋』で山本健吉文学賞受賞。1999年にスペインのサンティアゴ巡礼道、2017年に四国遍路を踏破。「歩く旅」をライフワークとする。2010年より1年間、文化庁「文化交流使」としてパリを拠点に欧州で活動。2017年よりテレビ朝日・BS朝日『あなたの駅前物語』の語りと俳句を担当するなど、幅広く活躍中。現在、「日本再発見塾」呼びかけ人代表、北里大学・京都橘大学・昭和女子大学客員教授、「公益財団法人東日本鉄道文化財団」評議員。著書に句集『てっぺんの星』(本阿弥書店)、紀行集『奇跡の四国遍路』(中公新書ラクレ)他多数。

### 奇跡の四国遍路～歩行から生まれる思考～

スペインのサンティアゴ巡礼道と四国遍路。「宗教的」にも「地形的」にも全く異なる二つの道ですが、「歩く」という行為が私の中で地続きでつながり、数々の気づきを与えてくれました。かつて、西行、芭蕉、山頭火なども歩いて詩歌を詠みました。今回の講演では、「歩く」ことから生まれる詩的な思考や、四国遍路での貴重な出会いについてお話させていただきます。

講演会終了後、黛 まどか氏 著書『奇跡の四国遍路』の販売・サイン会を行います。

参加申込先  
・問合せ先

愛媛大学社会連携支援部地域連携推進室

TEL 089-927-8974 FAX 089-927-8820 メール kensien@stu.ehime-u.ac.jp

※お申し込みの際は、氏名・住所・電話番号をお伝えください。なお、いただいた個人情報は、本会に関するご連絡にのみ使用させていただきます。

会場には駐車スペースはありません。近隣の有料駐車場をご利用いただくか、公共交通機関をご利用ください。

・参加いただく方は記念式典からご参加下さい・定員になり次第、参加受付は終了させていただきます。

この式典・講演会は「愛媛大学開学70周年関連事業」の一環でもあります。



愛媛大学開学70周年関連事業



## 愛媛大学地域密着型文系研究センターの設置に寄せて

愛媛大学は、これまで、民間企業との共同研究をベースにして、産業イノベーションや新事業創出に繋げる「産学連携」と、市町や各種団体など地域のステークホルダーとの協働による地域や地域産業の活性化に繋げる「地域連携」の両輪によって、社会連携を進めてきました。この度、地域文化の再評価とそれらの成果の社会への発信によって地域活性化に貢献することを目的として、社会連携推進機構に「地域共創研究センター」「四国遍路・世界の巡礼研究センター」「俳句・書文化研究センター」の3センターを設置することにしました。

愛媛大学は、文系から理系まで、幅広い専門分野をもつ地方大学です。愛媛大学は、文系の教員の活動を組織化し、文系の研究力を駆使して、地域創生に取り組みます。ご期待ください。



愛媛大学長 大橋 裕一

## 地域共創研究センター(文理融合で地域創生を研究・実践)

地域共創研究センターは、地域に関する学際的な研究・教育・実践活動を行うことによって、地域共創に関する学術研究の推進を図り、併せて地域社会の活性化と発展に貢献することを目的として設立されました。本センターの前身は、本学初の文系センターとして平成16年に設置された地域創成研究センターです。

本センターは、①理系・文系の様々な分野の視点、理論、手法を駆使し、②地域のステークホルダーや学生とともに地域課題に取り組むため、「地域共創理論研究部門」「地域共創実践研究部門」の2部門を設置しています。本センターは、地域に軸足を置いた研究活動を発展させ、地域に関する新しい学際的な学術領域の創造、地域の自立的な発展への貢献、地域社会の発展を支える人材の育成を目指し、海外研究・貢献も積極的に行います。



地域ステークホルダーからの聞き取り調査

## 四国遍路・世界の巡礼研究センター(四国から世界へ)

本センターは、四国遍路の歴史や現代の実態を解明し、世界各地の巡礼との国際比較研究を行うことを目的として設立されました。本センターでは、歴史学、文学、社会学、法学、経済学、観光学などさまざまな分野の教員が結集し、他大学や博物館・官公庁などとも連携しながら、四国遍路と世界の巡礼の学際的研究を進めるとともに、四国遍路の世界遺産登録への学術的協力など、地域貢献にもつとめていきます。

国内研究部門では、四国遍路の古代から現代までの歴史的諸相を学際的に解明し、また現代遍路の多様な実態をフィールド調査などを通して具体的に明らかにします。国際研究部門では、世界各地の巡礼の歴史や現在の諸様相を明らかにし、あわせて四国遍路と世界の巡礼との国際比較を行います。



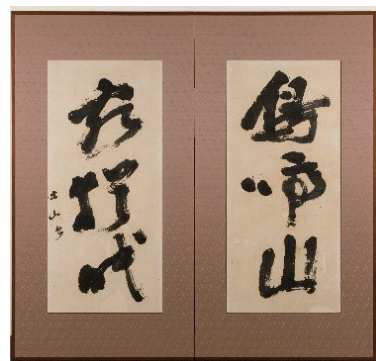
愛媛大学生と遍路道を歩く

## 俳句・書文化研究センター(地域の俳句・書文化の振興のために)

愛媛の地は「俳句の聖地」「俳都まつやま」等と言われ、正岡子規をはじめ、多数かつ多様な俳人が輩出され、活動した地域です。近年では、高校生の「俳句甲子園」も全国規模で開催され、俳句文化の新たな側面を切り開いています。また、俳句文化は、俳句を条幅や短冊に表現するなど、書文化との深い関係を持ちます。

書文化において愛媛は、全国的に著名な僧 明月が活動した地域であり、近年は、松山の神官三輪田米山が「近代書の先駆け」として脚光を浴び、全国的に評価が高まっています。愛媛大学図書館には、歴史史料としても貴重な『米山日記』や作品が多数収蔵され、研究に供されています。

俳句・書文化研究センターは、地域の特性を活かし、地域と連携して、愛媛の俳句研究・書研究を推進し、さらなる地域文化の振興を図ろうとするものです。



三輪田米山「鳥啼山客猶眠」